

包井網

米内山陽子

登場人物

弘美 (三六)	利男の妻
飛鳥 (三六)	利男の姉
街子 (三六)	利男の駆け落ち相手
利男 (三〇)	錢湯の長男

太字は独白、または回想。

0 前説

利男が入ってくる。

利男

どうも皆さん、ようこそ小杉湯へ。賑々しいご来場誠にありがとうございます。これから八〇分、存分にお楽しみいただけますよう、務めます。誰だお前、と言
う声が聞こえてきそうです。僕はこここの長男でございます。当年とっ
て三〇歳。三年前に出奔し、現在は熱海で板前の見習をしております。という、
僕の存在、そしてこれから始まるお話、もちろんフィクションです。銭湯です。
皆様の近くをお湯が通りかかるかも知れません。電子機器は電源を切り、鞆の奥
深くにお沈めください。お手洗いはお済みでしょうか。あちらです。窮屈なとこ
ろでございます。始まりますと動けない気まずい行きつらい。三重苦でございます
すのでなにとぞ今のうちにお済ませください。どちら様もよろこばれますか？ よ
びさんすね？ それではチタキ三第三回公演。「包囲網」。開演でございます！

音楽、盛り上がり、開演。

1

一日目

飛鳥がデッキブラシと、防水のスピーカーを持ってやってくる。
大音量で浮かれトンチキな曲を掛け、ノリノリで掃除し始める。
弘美が奥から慌てて入ってくる。

弘美

音大きい！

飛鳥は気付かない

弘美

うるさい！

弘美は操作しようとするが、やり方が分からない。
いろいろ押してみるうちに音楽が止まる。

飛鳥 あ

弘美 やっと消えた。母屋までもっ(音が)

飛鳥 ごめーん

弘美 もうちょっと小さくお願いします。お父様もお母様もびっくりしちゃうから。

飛鳥 気をつける!

弘美 お姉さん、最初は気をつけてくれるんだけど、一週間もするとまたぐわーっと大

きくなるから。

飛鳥 もう気をつけるってば。ごめんね。

弘美 お願いします。

飛鳥 お父さんとお母さんは?

弘美 お父様は、今日も部屋から出てこない。ドアの前にお膳置いとききました。お母様

は、コタツ。

飛鳥 テレビ

弘美 (頷く) またちょっと大きくなっちゃったみたい。手伝います。

飛鳥 ありがとう。

弘美は首から提げた靴下を胸元に仕舞う

飛鳥 鏡お願い

弘美 はーい

弘美は鏡を拭き始める。

飛鳥 あのさあ。

弘美 なんですよう

飛鳥 ほんと、ごめんね

弘美 やめましょう

飛鳥 なんか、なんと謝っても足りないっていうか

弘美 わたしもっ、この嫁っていうか、娘だと思ってます。置いてくれてるだけであ

りがたいです。……このやりとり何回目?

飛鳥 飽きずに繰り返すよ!

弘美 わたしは飽きちゃったな

飛鳥 だって娘って言う割にあたしにも敬語、っていうか、なんかタメ語と敬語が入り

弘美 交じったやつ。やめて。ちゃんのため口聞いて
勘弁してください。今過渡期なんです。

飛鳥 過渡期？

弘美 敬語からため口に、こう、スライド？

飛鳥 時間かかるなあ

弘美 すいません。

飛鳥 いい人いないの？

弘美 唐突

飛鳥 いや、だって

弘美 わたしはトシちゃんの妻ですから。

飛鳥 だってあいつが駆け落ちしてからもう三年だよ？

弘美 帰ってきます

飛鳥 バイト君に言い寄られてるでしょ

弘美 は？

飛鳥 こないだ見ちゃった。「俺が弘美さん連れ去っちゃだめっすか」

弘美 だめっす。

飛鳥 連れ去られちゃえばいいのに

弘美 連れ去られて欲しいんですか？

飛鳥 そういう意味じゃなくて

弘美 わたし、どこにも行くところがないんですよ？ 知ってるでしょ

飛鳥 だけど

弘美 未だに全方位腫れ物扱いでも、お母様にマイルドに嫌われてても、わたしはここでトシちゃん待ちます。最近じゃお客さんに「逃げられさん」って呼ばれるのも苦じゃなくなってきたし。なんか可愛いとすら思えてきた。逃げられさん

飛鳥 卑屈にならないで

弘美 お姉さんこそ、家帰らなくていいんですか

飛鳥 帰ってるよ。終わった後とか。休みの日とか。

弘美 深夜だし。定休日木曜だし。旦那さんカレンダー通りだったでしょ？

飛鳥 平気平気。大人だし。

弘美 離婚されませんか？

飛鳥 今状況が状況だから。わかってくれてるよ

弘美 すいません。

飛鳥 謝らないで。結構悪くないって思ってるから。悪くないってそういう意味じゃなく、

弘美 わかってますよ
飛鳥 やっと親孝行できてるなって。
弘美 親孝行
飛鳥 今まで何にも出来なかったからさ

女湯から、洗面器が倒れる音がする。
二人、驚く。

弘美 今誰かいます？
飛鳥 いないはずだけど。

言いつつ、奥に消える飛鳥。
入れ違いのように、前から利男が入ってくる。
二人は目が合う。

利男 弘美……？
弘美 トシちゃん……？
利男 弘美！
弘美 トシちゃん？

利男は浴場に飛び込むなり土下座。

弘美 え？
利男 申し訳ありませんでした！

女湯の脱衣所から声がする

街子 (声) 離して！離して！
飛鳥 (声) いいからお前はこっち来い！
弘美 え？

前から、街子を引っ張って飛鳥が入ってくる。

街子 トシ、飛鳥どうにかして！

飛鳥 利男？

利男 姉ちゃん……マッチ離して。

飛鳥 利男コラア！ お前なにノコノコ帰ってきとんじゃコラア！ 女連れってどう
いうことじゃコラア！

利男 (弘美に向き直り、また土下座) 離婚してください！

弘美 飲み込めない。その願いは飲み込めない。ここで土下座してるのは、三年前「好きな人が出来ました」って置き手紙だけ残して去ったわたしの夫です。そしてわたしは彼の妻です。あそこで元ヤン全開なのが夫の姉で、その隣で涼しい顔してるのが、夫と逃げた女です。あ、登場人物は以上です。以上なんですけど、三年も連絡一切なくて、どこにいったかもわからないわたしの夫が、帰ってきました。わたしが何を言う間もなく、先手必勝土下座。元ヤン怒る。女涼しい顔。わたしは？ どうするべき？ 泣くべき？ よくわからないので、踏みつけることにしました。

弘美は利男を踏みつける。

5

街子 やめて！

利男 マッチ！ いいんだ。こうされても仕方ないんだ！

街子 だって、悪いのはわたしなのに……！

利男 いいんだ！ これで弘美の気が済むなら、これでいいんだ！

弘美 やだ。なんか、ドラマが、過剰。乗っかりたくない。でもこの足を下ろすタイミングがわからない。だからわたしはこう、(もっと踏みつける)

利男 そうだ弘美！ もっとだ！

街子 やめてえ！

弘美 こう！

利男 もっと来い！

街子 やめて！

弘美、足を下ろす。

弘美 全然スッキリしない……
利男 いいんだ、俺なんてもんは、もっと踏まれていいんだ。
街子 違うの、わたしが悪いの！
弘美 うるさい！ トシちゃん、顔上げて。やりたくてやってる土下座見せられても何とも思わないから
利男 あ、おお。
飛鳥 あんたも嘘泣きやめな。
街子 嘘泣きじゃない
飛鳥 あたしにばれないとでも思ってるの？
街子 飛鳥、久しぶりだね
飛鳥 べたべたすんな
弘美 旧交暖めるのやめてもらっていいですかね
街子 ごめんなさい、懐かしくて……親友、だから
飛鳥 元だクソ街子
弘美 で？ トシちゃん。今更帰ってきて、なにか言ったかな？
利男 離婚、してほしい。正確に言っと、離婚届を出して欲しい！
弘美 なんで？
利男 なんでって、もう、三年も経っちゃったし。
弘美 うん、それで？
利男 あの、マツチ、彼女
街子 はい(手を上げる)
利男 子どもが出来て
弘美 え？
利男 子どもが出来て、その、ちゃんと、親父になりたいって思ってた
飛鳥 オイコラおめえどの面下げて言っただコラア！
利男 わかってる！ あのときの子、もう大きくなったる？ 二歳、三歳か。男だった？
飛鳥 女だった？ その子にも、ちゃんと謝りたいし、償いをしたいって、思ってる。
飛鳥 (遮って) 利男！ やめな！
利男 え？
弘美 (息が荒くなっている) お姉さん、どうしよう
飛鳥 弘ちゃん
弘美 うまく、息、できない、